

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

令和 7 年度病害虫発生予察注意報第 9 号を公表したので送付します。

令和 7 年度病害虫発生予察注意報第 9 号

1 作物名 さとうきび (夏植え)

2 害虫名 カンシャワタアブラムシ

3 発生地域 八重山群島

4 注意報発令の根拠

3 月上旬に実施した石垣市の新植夏植えほ場における調査の結果、寄生株率は 34.1% (前年: 0%、
平年: 1.3%)、発生ほ場率は 100% (前年: 0%、平年: 31.5%) となり、平年と比べ多発生となった。

5 発生生態および被害

- (1) 単為生殖により仔虫を産み、年十数世代を重ねる。発生は 4～5 月に最も多く、10～11 月
にも発生のピークがある。
- (2) 有翅虫 (図 1) が秋季に新植夏植えほ場に定着し、翌春の大発生の原因となることが多い。
- (3) 無翅虫 (図 2) は綿状の白いワックスを背面から分泌し、幼虫 (図 3) とともにさとうきび
の葉裏に密なコロニーを形成する (図 4)。
- (4) 多発すると無翅虫と幼虫が葉裏一面に群生して吸汁し (図 5)、排出された大量の甘露により
すす病を併発して光合成を阻害するため (図 6)、葉の黄化や生育遅延をもたらす。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 春季の多発生を抑制するため、秋季に新植夏植えほ場で発生が見られた場合は薬剤防除を
行う。春季においても、発生初期に防除を徹底することが重要である。
- (2) 薬剤は葉裏にかかるよう丁寧散布する。
- (3) 薬剤散布時は、収穫前のさとうきびや近隣作物にドリフト (飛散) しないよう注意する。
- (4) 多発生時は有翅虫による移動分散が絶えず起こるため、一斉防除を行うことが望ましい。
- (5) 捕食性天敵であるマエウスジロマダラメイガの密度が高いほ場では、薬剤散布を控えて生物
的防除を行うことも有効である (図 7)。



図1 成虫（有翅虫）



図2 成虫（無翅虫）



図3 幼虫



図4 葉裏にコロニーを形成



図5 多発ほ場の様子



図6 甘露に発生したすす病



図7 マエウスジロマダラメイガ（天敵）

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL：（本所）098-886-3880（宮古駐在）0980-73-2634（八重山駐在）0980-82-4933

ホームページアドレス：<https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html>

